

第1回和光市地球温暖化対策委員会 要旨

日時 平成24年11月28日(水)

午後2時00分～3時30分

場所 和光市役所 602会議室

出席委員：中川委員、太田委員、今井委員、芳野委員、松田委員、横山委員

事務局：星野市民環境部長、尾形市民環境部次長兼環境課長、小賀坂統括主査、
堀井主事

傍聴者：なし

1. 概要

次第のとおり。今回は第1回目の開催のため、各委員への委嘱書の授与及び部長からの挨拶、委員紹介及び委員長、副委員長の選出並びに両名の挨拶があった。

委員長には松田委員、副委員長には芳野委員が選出された。

2. 議題

(1)委員会の目的(事業内容の説明)について

事務局から、事前配布資料に基づき説明があった。

【委員の意見及び事務局の説明の概要】

太田委員：実行計画ができたばかりの初年度で、これから何をしていくかの方向性が見えない。数値の見直しも必要になってくるし、状況の把握だけでなく、評価を行わなければならない。

今後の施策によってどれだけ省エネを達成できたかということが実績になると考える。

事務局：県内各市の状況を確認しながら、当委員会の中でも考えていく。

松田委員長：エネルギー量をいかにコントロールするかが重要である。

芳野副委員長：市民には県のうちエコ診断などを通じて省エネに関心を持ってほしい。

(2)平成25年度温暖化関連施策について

事務局から、資料1及び2に基づき説明があった。

【委員の意見及び事務局の説明の概要】

中川委員：省エネ機器等はその金額・効果が様々であるが、どのように補助金の支出割合を決めるのか。

事務局：県内各市の状況・費用対効果を踏まえて検討していく。

太田委員：実行計画の削減見込量の大部分を占める市民の省エネ行動について、意識を喚起できるような施策を行ってほしい。

太陽光発電システムの補助金については、固定価格買取制度の導入及び家庭へのシステム導入につき既に十分な効果を挙げたとの見解から、徐々に金額を下げていく方向でも良いのではないかと。

中川委員：現在の一般家庭にどこまで普及させていくかが重要である。

事務局：今後もフォローアップと啓発活動を進めていく。

太田委員：いい考えのある自治体との意見交換も重要ではないか。

事務局：節電は震災後の現在、関心事であるから、様々な意見が出ると思う。

芳野副委員長：広報やホームページなどを通じて、太陽光発電の定期報告のフィードバックをしっかりと行ってほしい。

事務局：ホームページでの公表は行っているのですが、今後もアップデートしていく。

太田委員：省エネ機器の導入を行政が後押しするとなれば、営業の励みになる。

今井委員：省エネ機器2つ以上の設置で補助金を支出するという方法もある。

(3)その他

事務局から、県の太陽光発電システム設置に伴う屋根貸し事業について、屋根貸しを行ってくれる企業及び当事業に詳しい方がいれば紹介してほしい旨の依頼があった。

また、次回委員会は来年3月に開催予定である旨説明があった。